

地域密着型サービス評価の自己評価グループホームふれんど

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての新たな理念は作成していないが、地域の中でご利用者1人ひとりが、かけがえのない存在であると考え、その人らしく生きていけるよう支援している。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることができるような基盤作りを事業所としてより一層、考え努力していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・運営理念を目に付く場所に掲示している。・管理者と職員は理念を共有し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		○	今後は更に、家族や地域へ理念が浸透されるよう働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩時は挨拶を積極的にしている。・地域の方々の協力により散歩道にベンチを作って頂いた。地域の方と共に利用させて頂いている。・地域交流カラオケ大会を実施。・いつも季節の野菜等を沢山頂いている。	○	今後も地域の中の一員として、当たり前のように隣近所の方々との日常的なつきあいができるよう努めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・運動会、映画会、カラオケ大会などへの地域の方への参加の呼びかけ。・地域の方の芸能発表会などへの誘いを受けている。・散歩時、草むしりやゴミ拾いをしたり、防犯パトロール員としてたすきをして歩いている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	事業所の力を活かし、地域貢献できることはないか皆で意見を出し合い考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価を活かすために会議等で意見を出し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議では、サービス、日々の様子や評価への取り組み状況等を報告して話し合い、そこで出された意見はサービス向上に活かしている。・会議には、多くのご利用者も出席されている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・月1回のサービス連絡調整会議への出席等。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・個々の必要性を関係者と話し合った上で、実際に活用している。	○	・地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要なケースの場合には支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議等において学ぶ機会を持ち「高齢者虐待防止関連法」について皆で勉強し合い、虐待が見過ごされることが無いよう注意し、防止に努めている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご利用者やご家族に不安がないように十分な説明を行っている。	○
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・毎日の生活の中で意見や苦情等を聞き出せるような対応に努めている。・利用者アンケートの実施。・毎月の介護相談員による介護相談の実施。・運営推進会議にご利用者が出席することも多く、意見を表せる機会の一つとなっている。	○ 今後は更にご利用者から意見を聞き出せる方法を探り、運営に反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・個々の健康状態、金銭管理等、何かあればその都度報告している。	○ ・暮らしぶりについて、元気な様子などを希望のご家族には携帯電話から、写メールやムービーメールをお送りしている。今後も続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関先に意見箱の設置。・苦情受付をホームに掲示。・運営推進会議で家族参加者からの意見を聞いている。	○ ・定期的に通信物等を利用し、意見や苦情等についての窓口をお知らせしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議等において、意見や提案がないか聞く機会を設け反映させている。	○
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・行事等の日は人数を増やす等。	○
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・馴染みの職員が変わらず勤務しており、支援を続けている。	○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・管理者や職員のレベルアップの為に、出来る限り段階に応じた研修が受けられるよう取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>・研修で学んできたことを、可能な限り実践して活かしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・サービス調整連絡会議、ケアプラン検討会等の順番での出席。・グループホーム見学。・グループホーム同士の交換研修。</p>	<p>○</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・日常的に、また職員会議等において意見を聞き出せるよう働きかけている。</p>	<p>○</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>○</p> <p>今後は更に、様々なことを把握した上で向上心を持ち、前向きにチャレンジしていけるよう努めていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・心配事、不安な事、求めている事等がないかをよく聴き、受け止めるよう努めている。</p>	<p>○</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談から利用に至るまでご家族等とよく話し、不安な事、求めている事等を聴き、受け止めるよう努めている。</p>	<p>○</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要に応じた対応に努めている。・その方にあったケアプランの作成。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・場合によっては入居前に「お試し期間」を設けて対応している。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は常にご利用者から学ぶ立場にあり、様々な生活の場面でそれを大切にしている。・毎日の食事作りは、必ずご利用者と共に行い、そこから学ぶものはとても多く、職員との支えあいの関係の一つになっている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご利用者に対する情報交換を積極的に行い、共に支えあう関係作りに努力している。・可能な範囲での医療受診時の付き添いの依頼。	○	日常の様子や外出時の様子、元気な様子などを希望のご家族に、写メールやムービーメールをお送りしている。今後も続けていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族との外出・外泊の自由、スズメ。・面会時には、一緒に散歩に行ってもらったり、入浴日には介助をしてもらったりしている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人や場所との関係を出来る限り続けられるよう、家族等の協力も頂き、支援に努めている。	○	家族がいない方では、年に1回位、お墓参りや馴染みの場所へ行く等に取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の関係の把握に努め、お互いに支え合い、良い関係作りができるよう支援している。・関わり合い、支え合えそうな方同士、話の合いそうな方同士、席を近くにする等。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・会った時には挨拶等、積極的に話をする。・過去には他施設に移られて間もないご利用者に皆で会いに行ったりしている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話の中でご利用者から聴き出せるよう努めている。・ケアプラン作成にあたり、改めて思いや暮らし方の希望、意向などを聴き出せるような場面を設けている。・ご利用者の意向や言葉遣いに合わせた会話の工夫をしている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・1人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用等についての把握に努めている。・本人及び家族、友人、知人、サービス利用先施設等からの情報を収集して個別に記録、管理している。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・1人ひとりの総合的な状態を把握できるよう、職員それぞれが観察し、記録や申し送りにて共有している。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・サービス担当者会議では本人、ご家族、関係者等で意見を出し合い、それらを十分に反映した個人に応じた細かな介護計画を作成している。	○	・今後もサービス担当者会議には、可能な範囲でご家族の参加を促していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・月1回のモニタリングを実施。・期間に応じた見直しの他、ご利用者の状態の変化によっては本人、家族、関係者と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で気になった事柄や本人の言葉は、個別記録に記入し確認し合い情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。・ご利用者の発する言葉や行動を日々の記録等からアセスメントをして実践や介護計画に繋げています。	○	
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて様々な工夫や対応で柔軟な支援をしている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・様々な地域のボランティアの方々の協力を得られている。・民生委員の方々の訪問をきっかけに交流をもつことができている。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	・本人の意向や必要性に応じて場合によっては他のサービスの利用も検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族と十分に話し合い、納得が得られたかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援している。・ご家族の協力を得ながら、かかりつけの歯科や眼科受診の支援をしている。	○	・ご利用者や家族の意見を聞いた上で、必要な方には訪問歯科診療が始まりました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		○	・認知症の専門医に職員が相談したり、診断や治療を受けられるような支援も検討していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・早期退院に向けて本人の体調を一番に考えた上で、担当医と十分な話し合いをしている。	○	早期退院が可能であれば、十分に注意しながらリハビリを兼ねて今まで通りの生活をして頂きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合、医療的な処置が随時必要になってきた場合等について、ご家族と契約時などを利用して話しをしている。	○	・重度化した場合や終末期のあり方について、可能な限り慣れ親しんだ環境で過ごしていただけるよう引き続き前向きに検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度化しつつある方について、かかりつけ医や家族と相談し合い今後の変化に備えて検討している。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・ダメージを軽減する為に本人に関わるケア関係者と十分な話し合いと情報交換を行っている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・1人ひとりのプライバシーに十分配慮した言葉掛け、個人情報の取り扱いを行っている。	○ ・1人ひとりの誇りやプライバシーについて、慣れてしまうことなく常に真剣に考えていきたい。・記録等の個人情報の取り扱いについてはより厳しく考えていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・わかるような説明の工夫(ご利用者によっては筆談等)、どんな事でも自己決定していただけるような声かけの工夫に努めている。	○ ・今後もより一層、努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者のペースや希望にそえるようどんな事でも本人に気持ちを確認しながら進めるよう努力している。	○ ・その人らしい暮らしとは何か? 日々追求し可能な限り実現できるよう前向きに取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・化粧をされていた方には化粧のススメ。・外出時には特別なお洒落の支援。・本人の希望によっては行きつけの美容院等へ行けるよう支援している。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎日の食事作りや片付けは、皆で協力して行うことが日課になっており、1人ひとりの力を活かせる場や楽しい時間になるよう支援している。・検査者等と一緒に食事をしている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・ビールやオロナミンC、菓子等1人ひとりの状況に合わせて家族の協力のもと支援している。	○ 好みのものを1人ひとりの状況に応じて日常的に楽しめるよう更なる支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・トイレ確認表に記録することで全員の排泄パターンの把握に努め、適時トイレへの声かけや誘導、状態に応じては夜間居室へのポータブルトイレ設置等の工夫をしている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・決まった時間帯ではあるが、ご利用者に希望を聞きながら入浴を楽しんでいただけるよう努力している。	○	・入浴日が決まっており人員配置の都合で、いつでもと言う訳にはいかないが可能な限り、臨機応変な対応を検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・個々の生活の観察や状況に応じて休息したり、安心して眠れるような支援を心がけている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・1人ひとりに喜びがあり、自信を取り戻せるような生活を送れるよう本人の言葉、生活歴の把握や日々の観察から役割作り(草木の水やり、野菜の千切り、畑仕事、米とぎ…等々)や気晴らしの支援(外出、外食、飲み会、カラオケ、ボランティアの方々による歌や踊りの会、映画…等々)に努めている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご利用者によっては大金ではないがお金を所持しており、面会時に孫に小遣いをあげたりしている。・買い物時はお金を所持し自分で支払いをしていただいている。	○	・今後も金銭感覚のある方には買い物時、見守りながらお金を使う喜びを味わっていただけるよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・外気浴や散歩、外出等ご利用者から意見を聞き出すような声かけの工夫を心がけ戸外に出かけられるよう支援している。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・日常の生活の中で、行ってみたいところを聞き出す声かけの工夫や家族等と相談しながら外出や墓参り等ができるよう支援している。	○	・中には家族のいない方、面会が少ない方もおられる為、墓参りや馴染みの場所に行くなど出来る限り個別の支援も考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご利用者の希望時に電話をしたり、手紙、年賀状や暑中見舞いなども勧めている。	○	・最近ではFAX通信を利用して、聴覚に障害をもった方でも家族とふれ合いを持てるよう支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・馴染みの人との関係を出来る限り継続できるよう働きかけや、訪問しやすい環境作りの工夫をしている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会を設けて職員会議等に話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	・運営者及び全ての職員が、どんな小さなことでも身体拘束に当たらないか、「ご利用者の身になって考えてみる」ことを忘れずにいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は、いつでも鍵が開いている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・昼夜を通して本人のプライバシーに十分配慮した上で利用者の所在や様子の把握、安全に努めている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・1人ひとりの状態の観察を十分に行い、状態にあった注意の必要な物品の保管や管理をし、危険を防ぐ取り組みをしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・1人ひとりの状態に応じた危険性について日常的に、また会議等で話し合い注意している。・ヒヤリハット記録をつけ話し合い事故防止に取り組んでいる。・火災時に備え難聴の方に非常時ボードを作成し居室・事務所に設置している。	○	・更なる知識、勉強を深め事故防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救急時の対応について人形を作り、定期的に勉強会をしている。・ファイルを作成しいつでも見れるようにしている。・救急時の対応についてのマニュアルを掲示している。・救命講習の受講	○	・急変時に備えて、慌てずに適切な行動がとれるように職員1人ひとりが研修等で実際に体験しながら学ぶ機会を定期的に設けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防災計画を立て年2回避難訓練を行っている。また地域の人々の協力を得られるよう行事や運営推進会議等を利用して働きかけている。	○	・毎月、防災チェックを行い災害時に備えている。・災害時には防災ダイヤルが利用できるよう準備を進めている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・その人らしい暮らしや抑圧感のない暮らしを大切にし、起こり得るリスク等を家族等に説明、対応策を話し合っている。	○	
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日のバイタルチェック。・体調の変化や異変に気付いた際は、口頭及び日誌の申し送り欄に記入し、情報を共有し対応に結び付けている。	○	・食事の進み具合や入浴時の全身観察など早期発見に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬表を作成し職員の目に付くところに掲示している。・間違えのないよう薬セットケースに薬名の記載をし確認しながら飲んでいただいている。・個人の医療ノートに記録、日誌申し送り欄に記入し、サイン。・症状の観察に努めている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・体操や馴染みの踊り、散歩等で体を動かす工夫や毎朝食時のプルーン、乳酸菌飲料の摂取、水分の勧め、ご利用者の状態によっては主治医より下剤等を処方していただき、排便記録をつけて観察をしている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声掛け、見守り。その方の状態によっては一部介助により、清潔の保持に努めている。定期的に義歯洗浄剤を使用している。訪問歯科診療での医師や歯科衛生士のアドバイスを参考にしている。	○	・歯科医師による訪問診療が始まり、1人ひとりにあった口腔ケアや治療、指導が行われている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・カロリー計算の勉強から大まかな栄養バランス、摂取カロリーについては理解でき、それを参考にしながら献立作りをしている。また全員の毎食の食事量、水分量も記録している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症に関して定期的に勉強する機会を設け、ファイルを作りいつでも見れるようにしている。	○	・ジェットパーフェクターでの消毒を1日1回行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・衛生管理記録の記入や業務日誌の項目でチェックしている。・定期的に冷蔵庫内の食品管理と掃除。・定期的にストック食品の消費期限などの把握をしている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・季節の花々を利用者と一緒に育て明るい雰囲気作りの工夫をしている。また日中は玄関を大きく開けており、食事時以外はレースカーテンもなるべくしないで、気軽に訪問していただけるよう気をつけている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間では、居心地良く過ごせるよう家庭的な雰囲気作りや季節感を採り入れて工夫している。・ご利用者にとって不快な音や光りがないよう配慮している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・僅かなスペースではあるが1人になれたり、気の合った利用者同士が過ごせるような居場所がある。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際や家族面会時にご利用者と相談しながら、使い慣れたものを持ってきて頂き、居心地良く暮らせる工夫をしている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・定期的に換気に努めている。室内の温度や湿度(冬場は各居室やホールに濡らしたバスタオルを干している)の調節には気を付けている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホール、トイレ、浴室(すべり止め)、ご利用者の状態に応じて居室内等にも設置。	○	・現在、車椅子でのご利用者はおりませんが洗面台が車椅子では使いづらい状態です。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・生活歴や日々の暮らしにおいて一人ひとりにを十分に観察し、わかる力をできる限り活かし維持できるような工夫をしている。・居室の名前、トイレ、台所等表示し、わかりやすくしている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭先には花を植えたり、動物を飼ったり、洗濯物を干したりとご利用者の方々が役割を持ち活動できるよう工夫し活かしている。	○	

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成14年の開設当初から入居されているご利用者様5名を含め、9名の女性のご利用者が日々元気に活躍されています。現在まで、ご利用者のほとんどが女性ということもあり、毎日の掃除や食事作りでは、それぞれが役割を持ち生き生きと参加される姿が目立ちます。特に食事作りにおいては、その方の意思や体調等にもよりますが、毎日ほとんどの食事がご利用者の方々の協力で出来上がります。当ホームでは、「グループホーム」の意味を深く考え、その方の力に応じて「何かできることはないか？」を常に探り、認知症の方々が協力し合いながら少しでも自立した生活ができ、共に支えあい自信をもって生きられるよう支援し、日々職員もそこから学んでいます。また地域の方々との交流も多く、旬の野菜を沢山頂いたり、運動会、カラオケ大会には多くの方々の参加があります。また地域の方々の協力により、散歩道にベンチも作って頂き、近所の皆さんと一緒に利用させて頂いております。月1回の外食会や季節に応じた行事、外出も多く、ご利用者の意見を取り入れながらメリハリのある生活作りに努めています。月1回発行の「ふれんど通信」には、多くの写真や活動の様子を載せ、ご利用者の様子をご家族や地域の方々、ボランティアの皆さんに紹介し大変喜ばれております。